



山と川と宿場と、弁護士。

長野県弁護士会 門田 雅也

1. はじめまして、木曽ひまわり基金法律事務所です。……木曽？

皆さんはじめまして。木曽ひまわり基金法律事務所の初代所長、門田雅也（もんでんまさや）です。当事務所は、令和6年3月16日に開設されたばかりの新米です。

ところで皆さん、木曽ってご存じですか。

「木曽」でイメージされるのは、平安時代の木曽義仲（源義仲とも言います。）と、飛騨・木曽・赤石の日本アルプスくらいではないでしょうか。

木曽は、長野県では中信エリアに位置しますので、松本市などの仲間になります。もっとも、インターネットで「木曽」と調べてみていただければわかりますとおり、木曽地域には平たいところがないのです。

通称、木曽谷といわれるエリアはその名の示すとおり、木曽川が削った谷の部分进行います。

ということで、地理的にみれば木曽の構成要素は、もっぱら「山」と「川」です。

しかし、木曽を語るには「中山道」という欠かせな

い要素があります。

中山道は、江戸時代の五街道の一つで、江戸から京都を結ぶ街道です。街道沿いには、旅人が休むための町一宿場町が必須です。

木曽エリアには、賛川宿・奈良井宿・藪原宿・宮ノ越宿・福島宿・上松宿・須原宿・野尻宿・三留野宿・妻籠宿・馬籠宿の11の宿場が設置されており、当事務所があるのは福島宿となります。

福島宿には、天下の四大関所の一つ「福島関所」が存在していました。現在は国史跡に指定されており、復元された関所の門があるほか、隣接する資料館では関連する古文書や用具が展示されています。ちょうど中山道の間地点であり、重要な要衝であったわけではす。

現在の木曽町にも、宿場町の雰囲気を残す素敵な街並みがあります。

私は、そんな宿場と関所の町に心を奪われ、木曽ひまわり基金法律事務所への赴任を希望いたしました。



木曽福島で最も宿場情緒のある「上の段」。お店もあり、舌でも木曽を感じられる。



キビオ峠からみた御嶽山

2. 木曽を満喫する男

木曽の宿場町は、福島宿に限られません。特に、奈良井宿・妻籠宿・馬籠宿の3つは、歴史で学んだ宿場町にきたかと思わせる町並みを残します。

さて、次は「山」と「川」について、紹介させていただきます。

木曽は前述のとおり、山に囲まれており、木曽川をはじめとした多くの川に恵まれた地域です。

木曽の山といえば、御嶽山です。

御嶽山は、日本の火山の中では富士山に次ぐ高度の山であり、御嶽山信仰の歴史もあります。遠く平安・鎌倉・室町時代に興った民間信仰と山岳信仰が結びついたものと言われています。御嶽山は、その高度に比して登山の難易度がそれほど高くなく、五合目から七合目まではロープウェイを利用することもできます。

木曽は北アルプスと中央アルプスに挟み込まれた地域であるため、見渡す限り山、山、そして山。もちろん林業も盛んで、林業大学校も木曽に存在しています。

川だって負けていません。たとえば、阿寺溪谷。「阿寺ブルー」とも称される透き通ったさわやかな青色が、溪谷に流れています。その隣の「柿其溪谷」も、素晴らしい青色を見せてくれます。

また、木曽川には「寝覚の床」という景勝地があります。木曽地域の中間地点に位置する上松町の周辺

は、花崗岩地帯です。その地形を木曽川が削り、姿を現したのが寝覚の床です。花崗岩特有の割れ方が、大きな箱を並べたような不思議な造形を作り出しました。この地には、古くから浦島伝説が残されています（もっとも、浦島伝説は日本各地に点在しているわけですが……）。

ここまで、宿場と自然の話にフォーカスしてきましたが、木曽の魅力はこれだけではありません。

工芸品として、木曽漆器という漆器があります。木曽五木といわれる、ひのき・あすなろなどの地元の豊富な良材を使用でき、17世紀初頭より木曽漆器製作が始まったとされています。木曽漆器の特徴は、長く使用するほど温もりのある艶が増し、堅牢になっていくことで、国内外の観光客に買い求められています。

特徴的なお菓子だってあります。初夏は朴葉巻き（ほうばまき）。米粉を練ってつくった餅で餡を包んで朴葉でくるみ、い草で縛って蒸しあげたものです。秋は栗子餅（くりこもち）。ぎゅう肥の餅を栗餡で包んだものです。どちらも期間限定のもので、日持ちもしないため、遠くから購入のためにたくさんの人が訪れます。

私が日ごろは木曽の蕎麦やお菓子に舌鼓を打ち、週末になると木曽の自然や町並みを楽しむ、という生活をしているうちに、8か月が経過してしまいました。7月にはお祭りでお神輿も壊しました。もしかしたら、地元の方よりも木曽を楽しんでいるのかもしれない。

3. 「弁護士」としての木曽

私が木曽に赴任したのは、木曽で数十年ぶりの弁護士事務所を営むためですので、ここからは弁護士として木曽を見ていきます。

行政的に見た木曽郡は、3町3村で構成されており、その中心となるのが木曽町です。金融機関の支店も多くあり、木曽福島簡易裁判所および長野家庭裁判所木曽福島出張所があります。木曽福島駅には特急も停車しますし、その利便性から当事務所も木曽町にあります。元は、木曽支部という独立の支部でしたが、現在は独立簡裁および出張所となっています。

木曽郡の人口は、令和6年4月時点で約2万4000人、最多人口は木曽町の約9900人となっており、高



柿其溪谷の牛ヶ滝。エメラルドグリーンの滝壺に水がまっすぐに落ちる

年齢率が40%を優に超える地域です。しかし、木曽の人々は自立心が強く、たくましい方が多いので、一見して年齢が分かりません。私が60代の方だと思って話していた方が、70代後半であった、なんてこともよくあります。木曽の人々がエネルギーであることがお分かりいただけるかなと思います。

木曽の皆さんにとって、弁護士に相談するというのは、私が想定していることよりハードルが高い行為でした。それもそのはず、木曽の人々の大半は、物心ついたときに弁護士が居なかったのです。そこで、私が最初に取り組んだことは、「弁護士とは何するものぞ」「門田とは誰ぞ」という疑問を解決していくことでした。

木曽の皆さんが相談に至るルートは大きく2つあり、一つはご自身で木曽ひまわり基金法律事務所を見つけ、お問い合わせいただくもの、もう一つが相談機関からご紹介いただくものです。今、私は後者に着目し、相談機関の方々に弁護士と私を知っていただき、顔の見える関係になれるように努めています。

といいましても、難しいことはしていません。各町村の福祉課、社会福祉協議会、商工会まで実際に行き、ご挨拶し、会話をしています。それだけです。最初は、皆さんは「弁護士はもっと難しいことを言う人だと思っていた。」とよくおっしゃられましたし、他にも「弁護士は、話ただけで何万円の費用が掛かるものでしょ。」「弁護士に相談できることは裁判だけだね。」とも伺いました。私と話した後、「弁護士って意外と、いろんなこと相談していいんだね。」とおっしゃられた時には、ああ、木曽に来てよかったな、と本気で嬉しくなったものです。

木曽でいただく相談は多岐にわたりますが、相続登記の義務化もあり、相続関係の相談をよくいただきます。それ以外にも、夫婦関係と子どもに関する相談、労働関係の相談、不動産の相談、多重債務の相談などがあり、マチ弁としてのやりがいがあります。

相談件数をみるに、開設後6か月経過時点では、電話での相談も含めると130件の相談をいただいております。皆さんからは、やはり近くにいるのがよい、思いついたときに相談ができるので助かる、との言葉をいただき、やはり木曽に来てよかったな、と喜びを

かみしめる毎日です。

4. 木曽はいいぞ！

木曽の皆さんには、弁護士としてだけでなく、木曽の一員としてかわいがっていただいております。商店街の焼肉大会にも誘われ、区対抗の駅伝のランナーにも誘われ、大変ありがたい限りです。

木曽は、この誌面で語りきれない魅力がたくさんある地です。木曽の良さを知っていくと、見てほしいもの、食べてほしいもの、買ってほしいものがどんどん増えていきます。嬉しいことに、友人や恩師が、私を訪ねて木曽に来ていただくこともあり、「すっかり木曽のガイドになったね。」とお褒めいただきます。

読者の皆さん、木曽はいいところですよ。このような素晴らしい場所で、弁護士としてお役に立てていることに感謝がつきません。これこそが、ひまわり基金弁護士の醍醐味です。



水無神社例大祭の「みこしまくり」。筆者は青い法被